

# 1. 概要

## 1.1 対象範囲の設定

当会議は、東は小浜港（湯梨浜町泊）から、西は赤碕港（琴浦町赤碕）までを対象とする。

## 1.2 波浪・漂砂移動について

鳥取沿岸の波高・波向については、以下の傾向がみられる。（2003～2016年度の波浪観測データ活用）

### 【春季～夏季】

- ・ 北北西～北北東方向の波浪が卓越する。一部、西北西の波も発生する。
- ・ 夏季は1m以下の波高に落ち着く傾向にある。

### 【秋季～冬季】

- ・ 北北西～北北東方向の波浪が卓越する。また、特に冬季には北北西～北方向の波浪が卓越する傾向にある。
- ・ 冬季には波高が1mを超える波が多くなり、時折、3mを超える波も発生する。

### 【年間】

- ・ 概ね、北北西～北北東方向に波浪が集中する。
- ・ 1年を通し1m以下の波が大半を占めるが、冬季には時折、3mを超える波が発生する。

### 【28年度の状況】

- ・ 冬季については、例年より北北西の高波浪の頻度が高い傾向。
- ・ 例年に比べ、秋季に高波浪の頻度が高い傾向。

### 【対象範囲の漂砂移動について】

- ・ 土砂供給源が天神川河口であるため、漂砂系の平均的な土砂動態は、天神川左岸では東側から西側へ、天神川右岸では西側から東側への移動となる。
- ・ 近年、当漂砂系では、河川供給土砂量の減少に加えて、導流堤等の建設により遮蔽域を形成し、卓越沿岸漂砂の阻止に起因する海岸侵食が生じている。



図 1.2.1 漂砂移動イメージ図

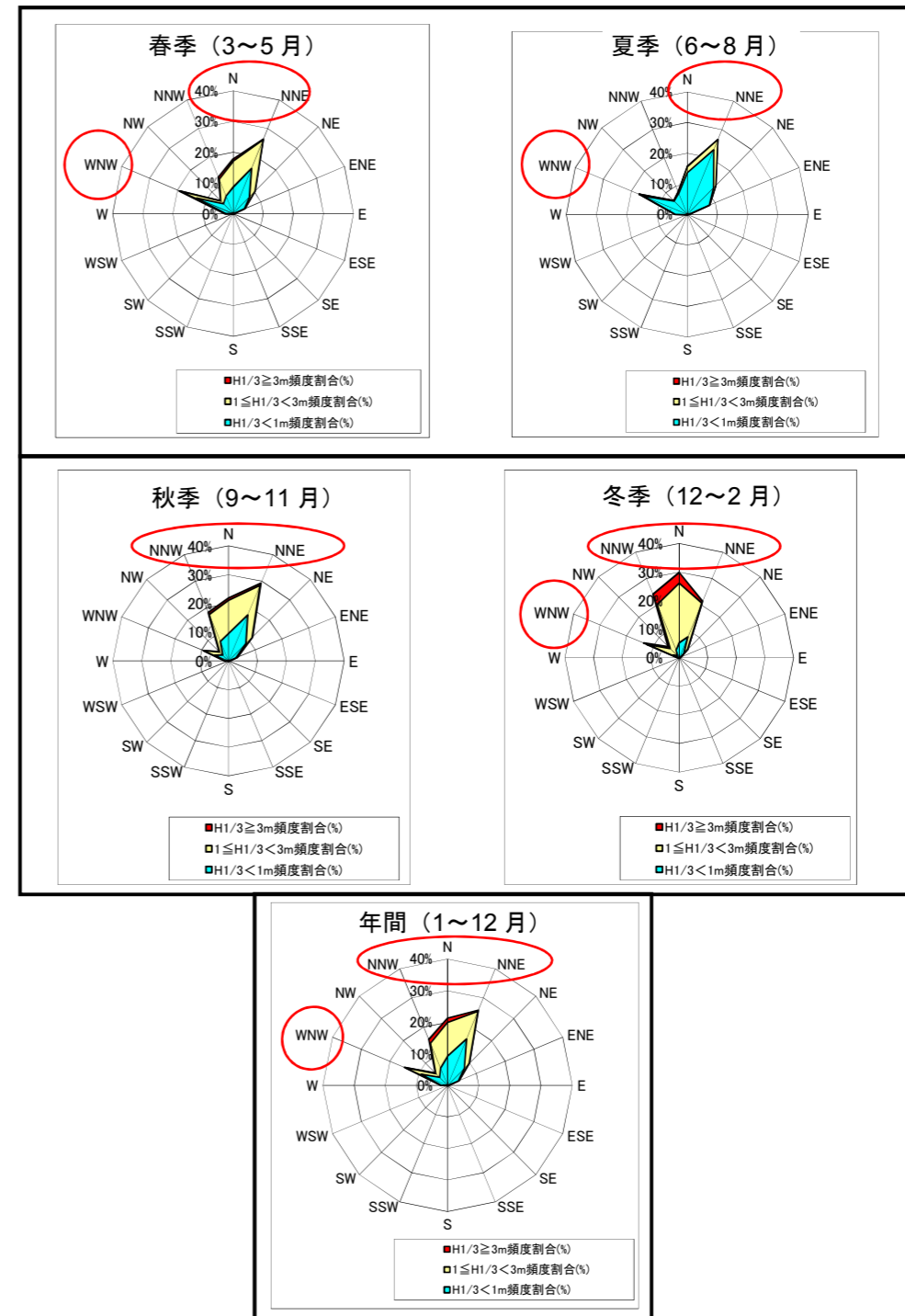


図 1.22.1 有義波高-波向頻度分布図（2003年～2016年）  
 ナウファス（国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網）を活用  
 ※2016年8月1日時点まで、公表されているデータにて整理

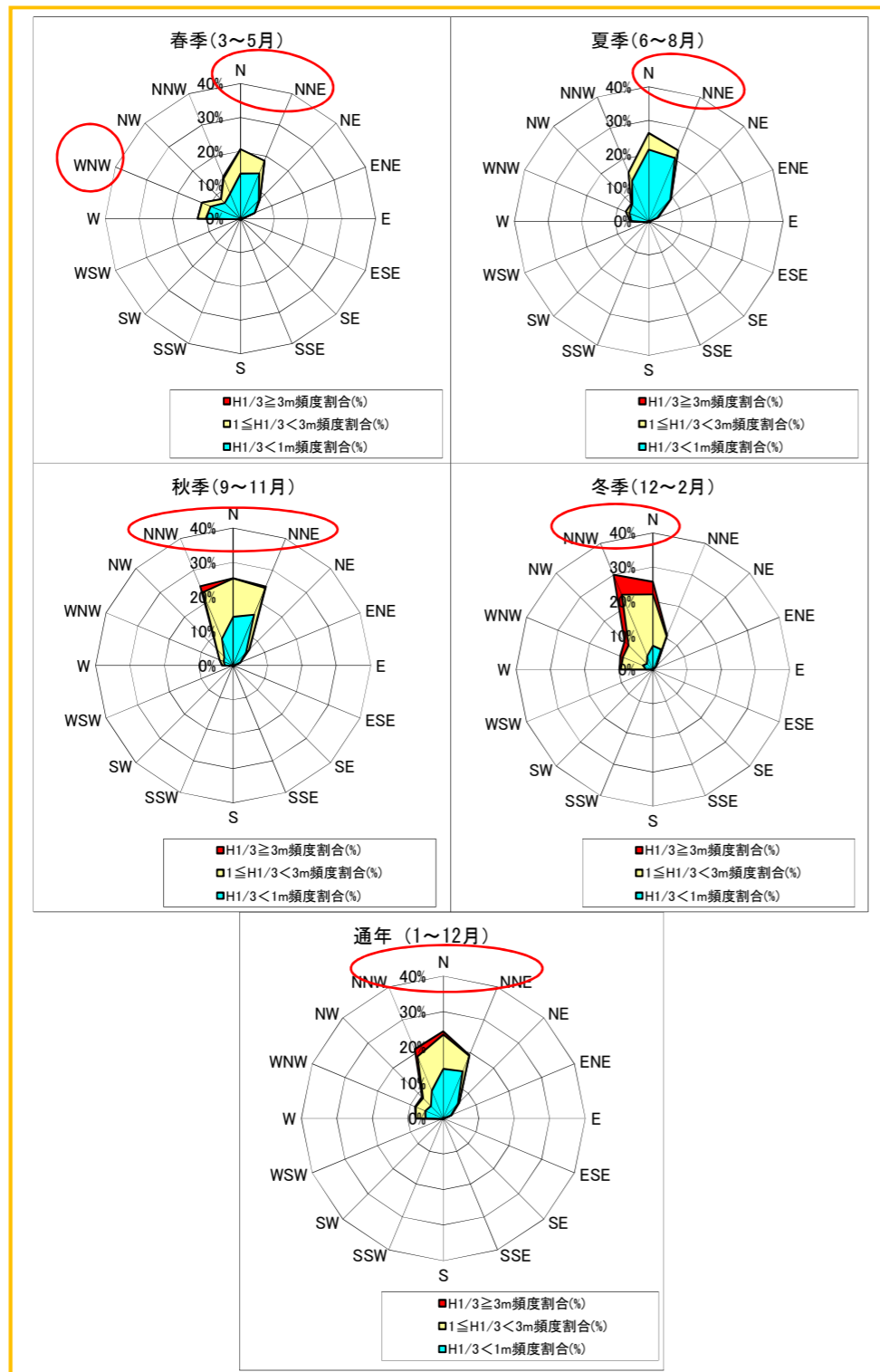


図 1.2.3 28年度の有義波高-波向頻度分布図 (2016.3~2017.2)  
 ナウファス (国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網) を活用

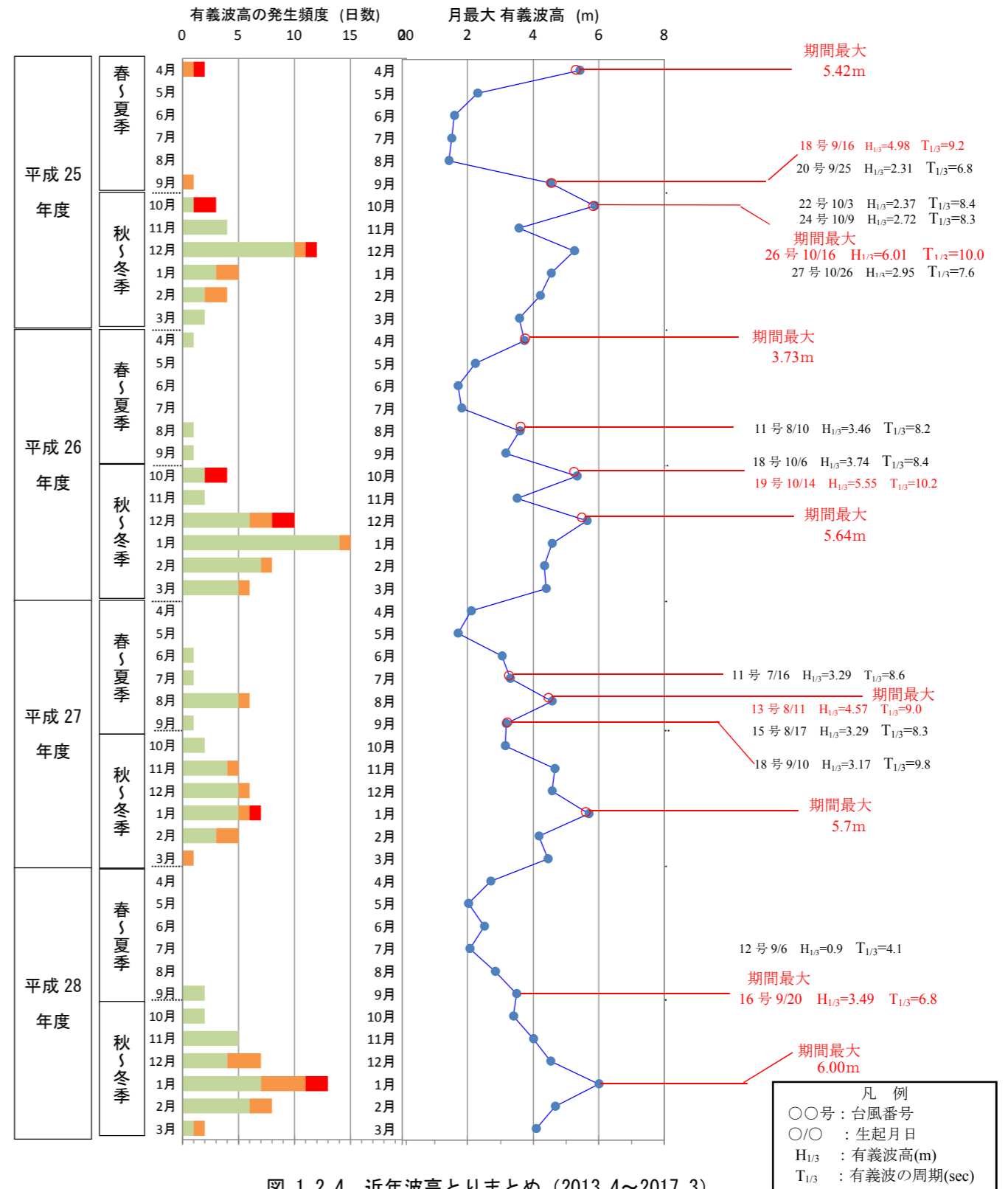


図 1.2.4 近年波高とりまとめ (2013.4~2017.3)  
 ナウファス (国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網) を活用

<エネルギー平均波高による波浪特性の評価>

漂砂による海岸地形変動の傾向を説明する指標として、エネルギー平均波高が用いられることが多く算定方法を以下に示す。

$$H_b = \sqrt{\frac{\sum H^2 T}{\sum T}}$$

ここに、  
 H：有義波高  
 T：有義波周期  
 H<sub>b</sub>：エネルギー平均波高

近年の鳥取港におけるエネルギー平均波高の算定結果を、右図に示す。

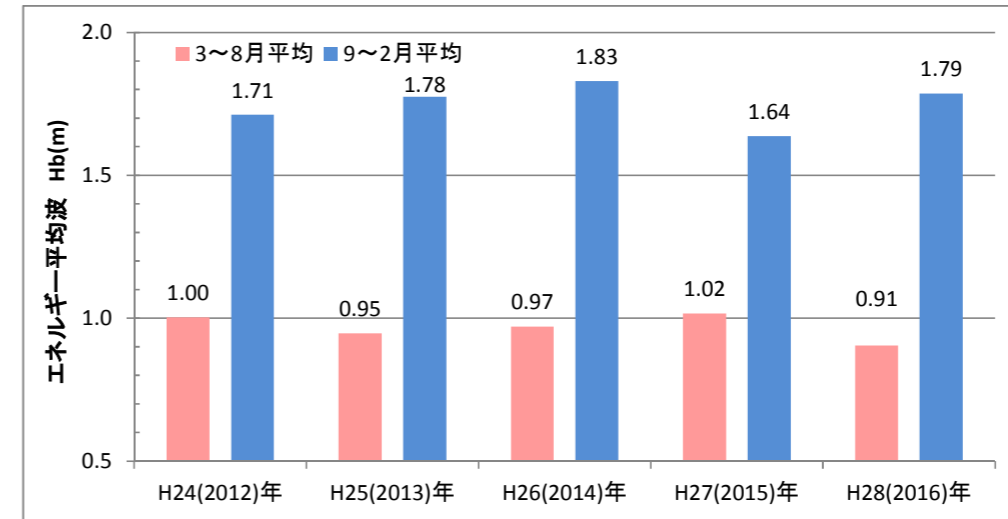


図 1.2.3 エネルギー平均波高の経年変化（鳥取港；H24(2012)～H28(2016)年度）

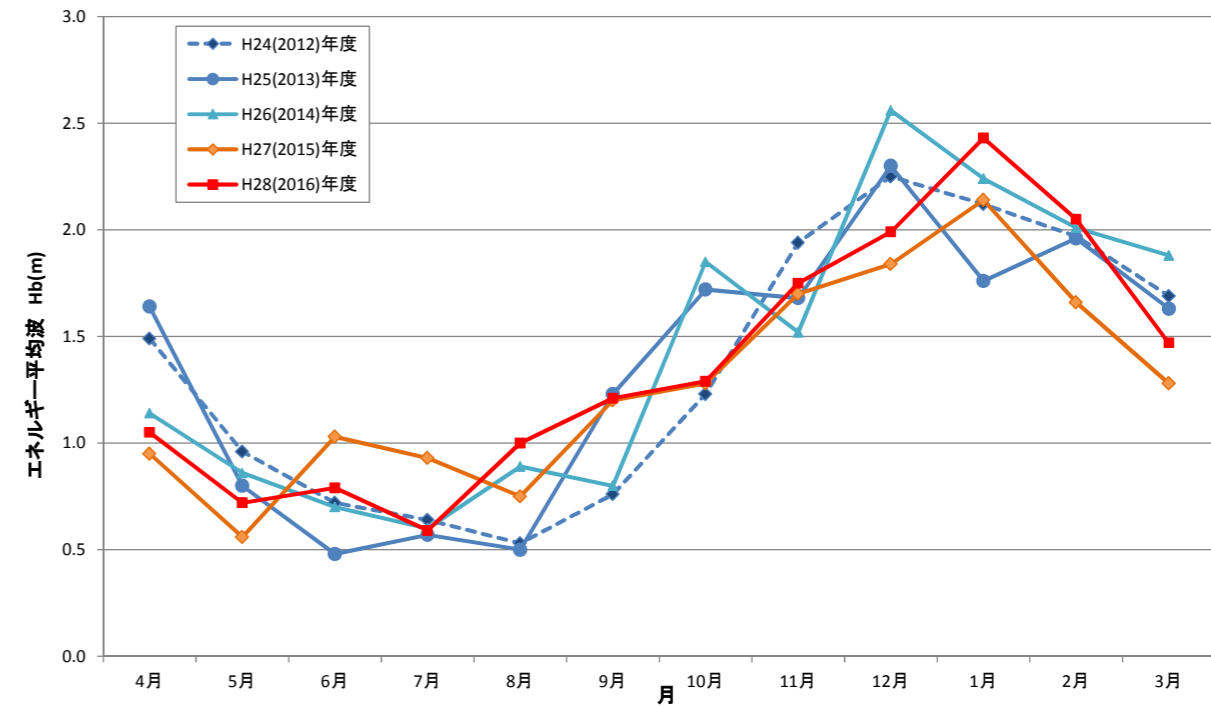


図 1.2.3 近年のエネルギー平均波高の月平均値（鳥取港；H24(2012)～H28(2016)年度）



## 2. 鳥取県中部沿岸の重点対策箇所の概要

平成 21 年度に開催された土砂管理協議会において、鳥取県中部沿岸の重点対策箇所として、3 箇所が選定されている。これらの箇所の概要と選定されるに至った課題について以下に示す。

### 【海岸保全対策の重点対象箇所】

- ① 天神川左岸地区：天神川河口左岸～北条川放水路右岸の範囲  
 →天神川河口左岸側や国坂付近では海岸侵食などの課題がある。  
 →北条川放水路では河口に土砂がたまりやすく、河口閉塞などの課題がある。
- ② 由良川左岸地区：由良川河口左岸～逢東船揚場の範囲  
 →由良川河口左岸側や大谷、妻波付近における海岸侵食、御幸川河口閉塞及び逢東船揚場の堆積などの課題がある。
- ③ 神川右岸地区：天神川河口右岸～橋津川左岸の範囲  
 →天神川河口右岸側の長瀬付近における海岸侵食などの課題がある。  
 ※ただし、経年的な測量調査は実施していない。

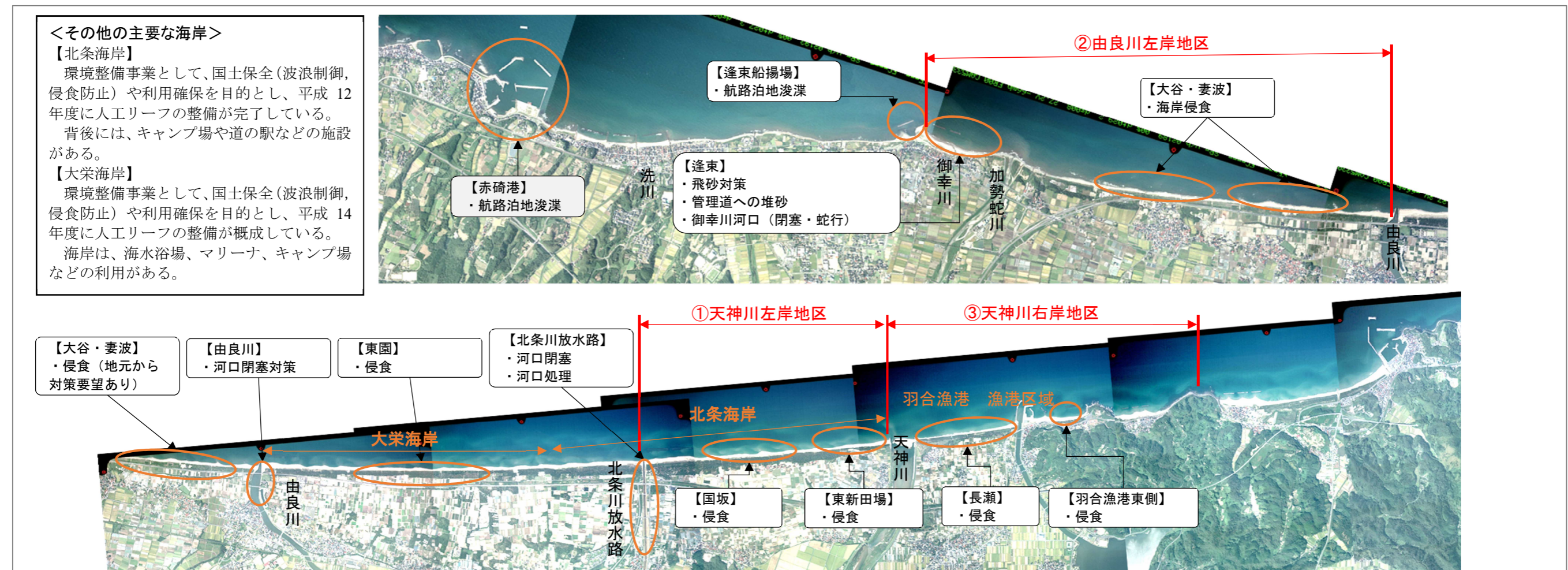


図 2.1.1 天神川漂砂系（鳥取県中部沿岸）の概要